

基本構想のイメージ

将来像

永遠の日本のふるさと遠野

大綱5
みんなで
考え支えあう
まちづくり

大綱1
自然を愛し
共生する
まちづくり

共通優先方針

- 1:産業振興・雇用確保
- 2:少子化対策・子育て支援

大綱2
健やかに
人が輝く
まちづくり

大綱4
ふるさとの
文化を育む
まちづくり

大綱3
活力を
創意で築く
まちづくり

基本理念

遠野スタイルの創造・発展

★地域の特性や資源を活かすこと

★自分たちのまちをより良くしようと行動すること

★市民が主体性を持つこと



次のページは…
5つの大綱を詳しく
紹介します

第2次遠野市総合計画

基本構想の概要をお知らせします

新遠野市誕生から、今年で10年。市は現在、これまでの取り組みや課題を踏まえ、次の10年間の目標となる「第2次遠野市総合計画(以下、第2次総合計画)」を策定しています。その計画作りの基本的な考え方である「基本構想」では、「産業振興・雇用確保」と「少子化対策・子育て支援」に力を入れること、「遠野スタイル」をさらに発展させることを明記しています。

◎問い合わせ 市経営企画部(電話62-2111内線222)



議論を深める市総合計画審議会のメンバーら

総合計画「基本構想」とは
市総合計画は、これからの10年間で市が取り組むまちづくりの指針となるものです。内容は、▽本市が目指す将来像やまちづくりに向けた基本理念を明確にする「基本構想」▽基本構想を実現するために必要となる主要施策を明確にする「基本計画」▽事業内容や実施時期を明確にする「実施計画」の3つからなります。市民ら25人で組織する総合計画審議会と、議会の承認を経て正式に決定されます。第2次総合計画は、平成28年度から平成37年度が計画期間。基本構想は6月市議会定例会で正式に承認されました。基本計画と実施計画は、4〜5月に開催された「市長と語るろう会」で出された「市長と語るろう会」で出された

た意見・提言をはじめとする、遠野の課題を踏まえて検討・策定が進んでいます。

この10年のスタイルを継承

平成17年度に新遠野市が誕生した際に策定した第1次総合計画では、市民と行政との協働活動による「遠野スタイルの創造」を基本理念に、将来像を「永遠の日本のふるさと遠野」として、まちづくりに取り組んできました。また、平成18年9月に制定した、市民憲章(次ページ参照)も市民生活の目標として定着しています。第1次の基本構想の考え方は、一定の評価と実績があることから、そのスタイルを継承し、第2次総合計画の基本構想を策定しました。

次の10年は「遠野スタイル」を発展!

本市のまちづくりの形である「遠野スタイル」は、市民センターや各地区センターを拠点に、各種団体などによって実践されています。「遠野スタイル」とは、▽地域の特性や資源を活かすこと▽市民が主体性を持つこと▽自分たちのまちをより良くしようと行動すること―を基調に展開するまちづくりのこと。市民と行政の協働活動その



官民が一丸となって取り組んだ沿岸被災地後援活動も「遠野スタイル」の一つ

将来像は「永遠の日本のふるさと遠野」

第2次総合計画の将来像は、第1次を継承し、「永遠の日本のふるさと遠野」としました。「永遠の日本のふるさと遠野」と

現するため、基本構想では、5つの大綱を制定。また、人口減少問題に立ち向かうため、共通優先方針として、「産業振興・雇用確保」「少子化対策・子育て支援」を掲げています。

基本計画は12月に決定

市は現在、この基本構想に基づき、基本計画を12月に決定する予定です。その際は、広報遠野や遠野テレビなどでお知らせします。

遠野市民憲章

わたくしたちは、悠久の時を越えて継承してきたうわしい郷土と、伝統ある文化に誇りを持ち、このすばらしい宝玉(たから)を、さらに「永遠の日本(にほん)のふるさと遠野」として、創造・発展させるため、ここに、この憲章をさだめます。

わたくしたちは

- 1 豊かな自然を愛し、平和で住みよいまちをつくります。
- 1 心と体をきたえ、温かい家庭と明るいまちをつくります。
- 1 創意をあつめ、産業と交流の元気なまちをつくります。
- 1 恵まれた文化を活かし、夢を育む学びのまちをつくります。
- 1 共に考え支えあって、未来を望む協働のまちをつくります。

大綱を紹介

まちづくりの方針を、大きく5つのグループに分け、大綱として定めています。

大綱1

自然を愛し
共生する
まちづくり



【概要】

市民が、豊かで美しい自然環境を愛し、かけがえのない自然と共生しながら、安全で快適に暮らせる、住んで良かったと実感できるまちづくりに取り組みます。

【具体例】

- ▼魅力ある中心市街地の形成
- ▼ケーブルテレビネットワークの充実
- ▼新エネルギービジョンの推進
- ▼消防防災拠点の機能充実
- ▼自然環境の保全
- ▼社会資本整備と長寿寿命化など

大綱2

健やかに
人が輝く
まちづくり



【概要】

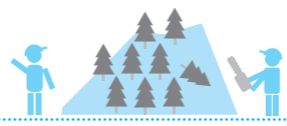
保健、医療、福祉の連携を図りながら、遠野型地域包括支援システムを推進。すべての市民が、心身ともに健やかで、いきいきとした人生を過ごし、助け合いながら輝くまちづくりに取り組みます。

【具体例】

- ▼遠野型地域包括支援システムの推進
- ▼「ハートフルプラン」の推進
- ▼障がい者の自立支援
- ▼「わらすこプラン」の推進
- ▼医療環境の充実
- ▼健康づくりの推進

大綱3

活力を
創意で築く
まちづくり



【概要】

本市の資源や特性を生かした活力ある産業を創意で築くために、異なる産業分野と連携・協

大綱5

みんなで
考え支えあう
まちづくり



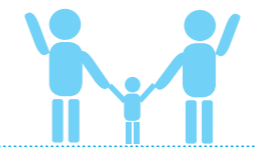
【概要】

地区センターを中心としたコミュニティの振興を図り、市民が自ら地域活動に積極的に参画し、市民と行政が共に考え、共に支え合う協働のまちづくりに取り組みます。

【具体例】

- ▼男女共同参画の推進
- ▼経営改革の推進
- ▼市民の主体的活動の支援
- ▼行政サービスの維持・向上
- ▼市長と語るろう会の開催
- ▼「自立・連携行動プラン」の推進

共通 優先方針



【概要】

将来像である「永遠の日本のふるさと遠野」を実現するためには、特に、人口減少という現実に向き合い、少子化対策、転

出などによる人口の社会減対策などの施策に取り組む必要があります。このことから、「産業振興・雇用確保」「少子化対策・子育て支援」をキーワードに、大綱1から5までにおける施策を総合的に組み合わせ、新たな時代に対応した心豊かな生活と地域づくりに取り組みます。

①産業振興・雇用確保

地域資源を生かした生産、加工、販売に取り組む6次産業を総合的に推進。併せて、人材の育成や新たな事業の創出を支援するなどして、市民所得の向上と定住人口の拡大を図ります。

②少子化対策・子育て支援

男女が出会う機会の創出から、妊娠・出産・育児までの切れ目ない支援、保育と教育の充実、住宅の確保と憩いの場の整備などに取り組みます。特に、妊産婦への包括的な支援体制の充実を図り、安心して子育てができる環境づくりに努めます。また、学校・家庭・地域と連携し、次代を担う子どもたちの「知育・徳育・体育」のバランスのとれた力を育みます。

我ら、国体応援団！

インフォメーション

「カウントダウンボード」掲載フォト作品募集！

市実行委員会は、希望郷いわて国体本大会開催1年前を記念し、市内数カ所に「カウントダウンボード」を設置する予定です。本大会までの間、サポーターや市民の皆さんの応援写真をボード上で紹介し、大会をさらに盛り上げていきます。



たくさんのお応募お待ちしております！

- ▶応募規格 ①カラー写真②横タイプ③上半身撮影—のものに限ります。携帯電話、スマートフォンで撮影した写真も可
- ▶応募方法 ①写真②サポーター宣言(15字以内)③氏名(団体名)④住所⑤電話番号⑥メールアドレス—を記入の上、下記まで郵送またはメールでお送りください
- ▶締め切り 8月10日(月)
- ▶申し込み・問い合わせ 〒028-0524 遠野市新町1-10 希望郷いわて国体遠野市実行委員会事務局 ☎62-4413 E-mail:gaku-spo@city.tono.iwate.jp

サポーター紹介！

「サッカーのまち遠野」をPR！

同協会は、市内の各サッカーチームの統括団体として、サッカー競技の普及のために、さまざまな事業を展開しています。各チームは、国体へ向け各種大会などで横断幕を掲げ国体をPR。同協会員はリハーサル大会や国体当日の試合運営をサポートします。佐々木さんは「国体でサッカーに関心を持ってもらうことが市内チームのレベルアップにもつながります。皆さんも会場に足を運び、選手を応援しましょう」と意気込んでいます。

おもてなしの心で国体を盛り上げよう！



遠野市サッカー協会会長 佐々木 正二 さん

国体開催まであと...

450日

遠野市は、サッカー競技少年男子の開催地です。



市長ひとこと

ピンチとチャンス

公有林を活用する取り組みに、60年間活動してこられた方から、一通のお手紙を頂きました。文面には、「ピンチとチャンスは常に隣り合わせ」「しつこさが課題解決のカギ」と書かれていました。

考えれば考えるほど、市政課題はピンチばかり。正直、「仕方が無い」とあきらめたくなることもあります。しかし、あきらめたらすべてが終わり、チャンスに変わることはありません。

毎週月曜日の始業前に、幹部職員が集まって情報共有を図る「庁議」の場では、「縦割りでなく総合力で、市民のために仕事をしよう」と、声を張り上げて檄を飛ばしております。

課題解決のため、何度でも、何回でも、しつこく、あきらめず、そして大きな声で問いかけてまいりたいと思っております。「ピンチとチャンス」「あきらめとしつこさ」は、常に隣り合わせの存在なのです。

本田敏秋

